

令和5年1月29日（日）イオン八事ショッピングセンターでのEプロ活動「名城大学薬学生とご家族と一緒に学ぼう！くすり実験教室」（共催：特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO））

名城大学薬学部では出前講義の一つとして、高齢者や小学生に「くすりの適正使用」や「薬物乱用の防止」に関する授業や体験実験を特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO）の協力の下に行っています。昨年10月から定期的にイオン八事ショッピングセンター（4階 G.G イベントコーナー）にて、「名城大学薬学生と一緒に学ぼう！くすり実験教室」を開催しています。今回も前回に引き続き、休日の1月29日（日）にご家族を対象として開催しました。

イオン薬局八事店薬局長の山本真一郎先生のご協力の下、同会場（4階G.Gイベントコーナー）にて「名城大学薬学生とご家族と一緒に学ぼう！くすり実験教室」を下記内容で開催しました。当日はご家族をはじめとして、延べ42名が来場されました。これまで4回開催した中で最も多くの方が来場され、地域に根差した活動になってきたと実感しました。子どもが薬の正しい使用方法を理解しやすくなるよう、ふりがなを付け、分かりやすい言葉に書き換えた子ども向けの説明資料を準備しました。体験実験を注意深く観察し、なぜそのように変化したのかの説明を熱心に聞く様子が実際に見られたことから、科学への関心をもつきっかけになったのではないかと思います。来場者から、「わかりやすい言葉で説明していただき、子どもでも理解しやすく、楽しめた」、「子どもが、なぜお茶の色が変化するのかについて興味を持って参加できた」「くすりの正しい飲み方がわかった」などの感想をいただきました。掲示した外用薬の使用方法に関するポスターの前で立ち止まって熱心にご覧になっている方の姿も多数見られました。日常の薬に関する疑問や服用薬については、教員が丁寧に対応していました。

イオン八事ショッピングセンターにおける「くすり実験教室」

日時：令和5年1月29日（日）11時00分-14時00分

場所：イオン八事ショッピングセンター（4階G.Gイベントコーナー）

内容：

・「体験実験」

コーナーを4テーブル設置し、5つの実験を体験できるブースを用意しました。Eプロの薬学生（5年生5名、4年生5名）は、実験目的の説明などを行いました。来場者からの質問にも丁寧に対応するよう努め、非常に貴重な学びとなりました。イオン薬局八事店薬局長の山本真一郎先生、名城大学薬学部 野田幸裕教授（NPO J-DO 副理事長）、間宮隆吉准教授（NPO J-DO 理事）には、集客や実験が円滑に進められるように助言をしていただきました。

<実験項目>

①薬の溶ける工夫（飲みやすさ）

②薬と飲食物との関係（相互作用）

実験1：コップ一杯の水かぬるま湯で「くすり」を飲むのはなぜ？

実験2：水がなくても飲める「くすり」があるのを知ってる？

実験3：シロップの「くすり」と「お茶」を一緒に飲むとどうになってしまうの？

実験4：「うがいぐすり」でうがいをした後に、

すっぱい食品を食べるとどうになってしまうの？

実験5：オレンジジュースで胃痛を和らげる「くすり」を飲むとどうになってしまうの？



制作：Eプロ（名城大学薬学部病態解析学Ⅰ：吉原希、野田幸裕）
薬品作用学（間宮隆吉）
監修：NPO J-DO

